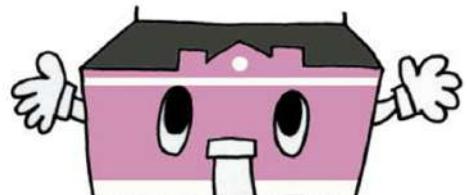


# “ジュウデンケン”って、 なに？



ぼくといっしょに勉強しよう！



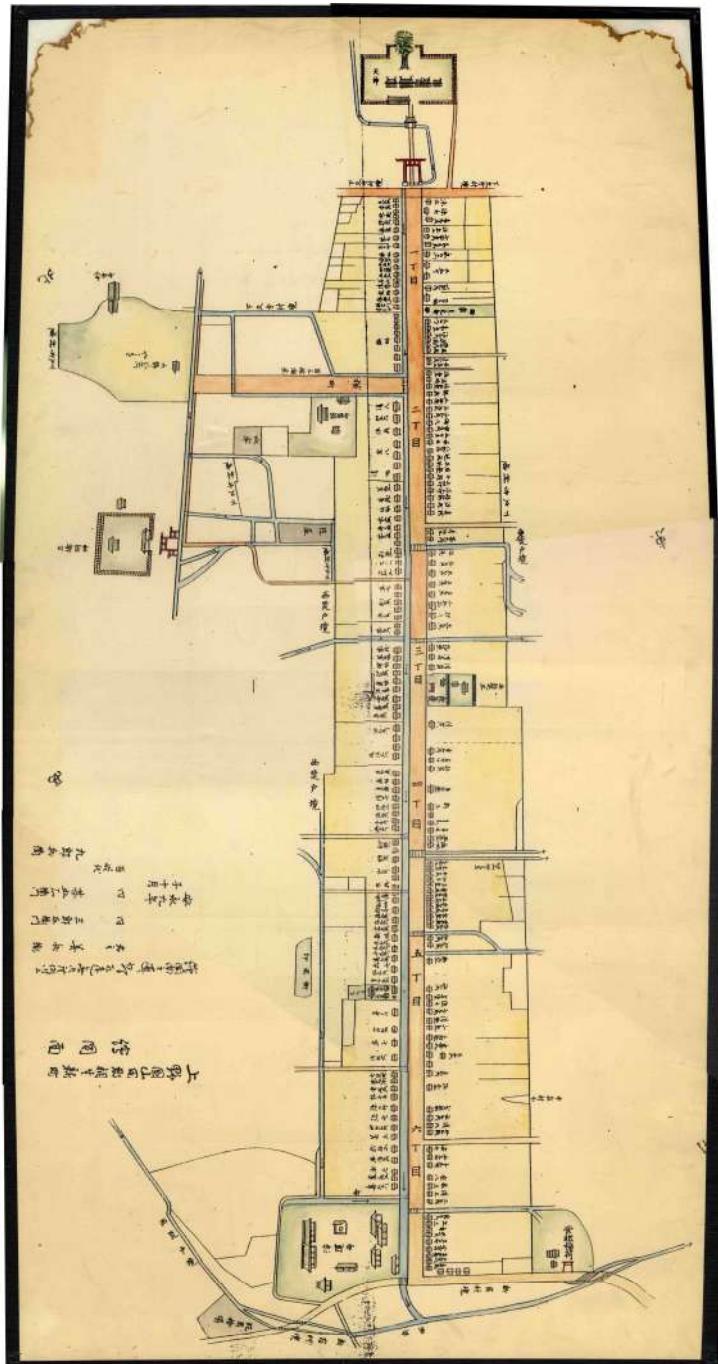
令和7年11月

桐生市近代化遺産 絹撚記念館

(桐生市 日本遺産活用室)

# いま のこ きりゅう しんまち まちなみ 今も残る桐生新町の町並み

今の本町一丁目から六丁目と横山町、天満宮をあわせた地域を、かつては「桐生新町」と呼んでいました。明治22年(1889)に近隣の村と合併して「桐生町」となりました。桐生新町と呼ばれていたころから、桐生は織物が盛んで、この地区にも織物関係の工場などが建ち並んでいました。重伝建地区には、今も桐生新町当時の短冊状の敷地割りや、主に江戸後期から昭和初期に建てられた貴重な建物が多く残っています。



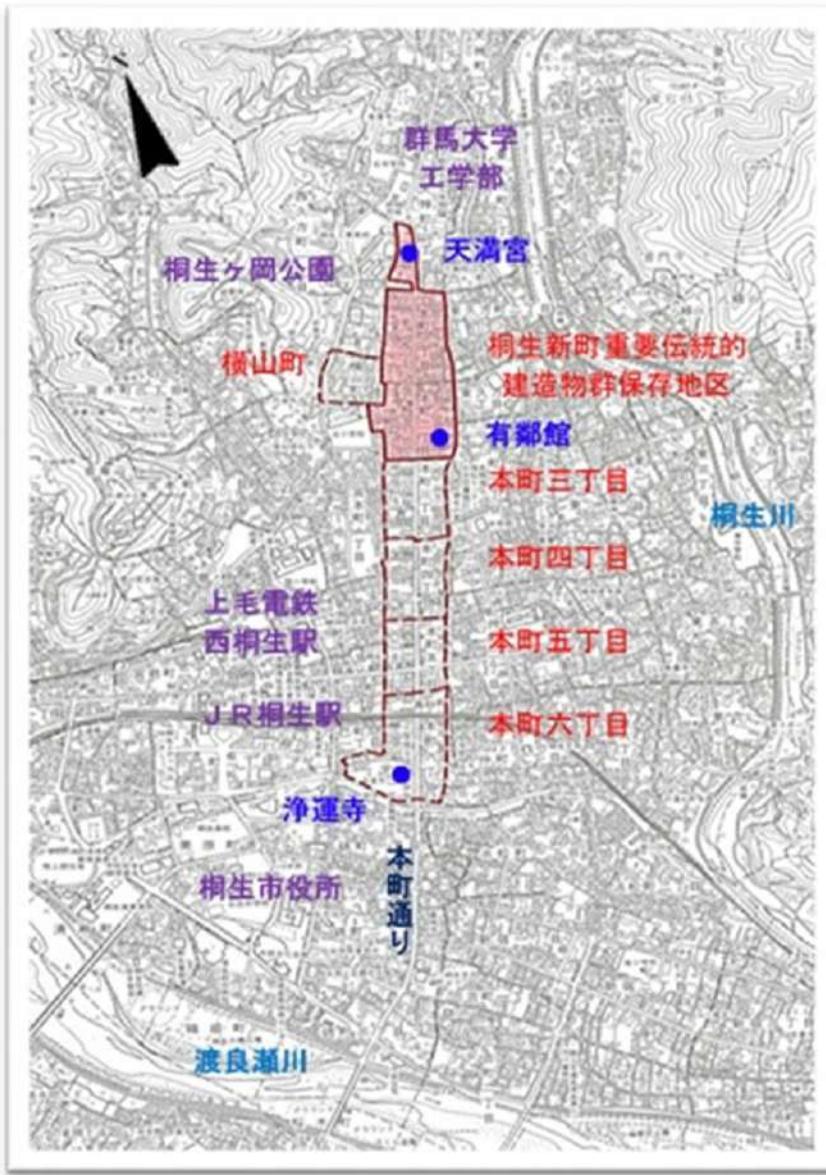
たいしうしょき ほんちょういっちょうめ  
大正初期の本町一丁目



うえ しやしん おな い ち と  
上の写真とほぼ同じ位置から撮った  
いま ほんちょういっちょうめ  
今の本町一丁目。  
に とてもよく似ていることがわかるで  
しょう。

## じゅうでんけん はんい 重伝建の範囲

### ■保存地区の位置



ひだり ち ず あか じっせん  
左の地図で、赤い実線  
かこ で囲まれたところが重伝  
けん せんてい じゅうでん  
建に選定された地域です。



しょうわ 昭和 40 年頃、本町通りでは、通りに面した建物のデザインを統一した地域もありました。

どうして赤い実線  
のところだけが選定  
されたの？



いい質問ね。今から50年くらい前(昭和40年頃)、本町三丁目から六丁目では、商店街を近代化するために道路を広げる工事が行われたの。

そして、お店の建物をそろえたり、アーケードをつくったりして、とても近代的でできな姿に生まれ変わったの。

そのとき、本町一・二丁目は、道路を広げる工事が行われなかつたんだって。でも、そのために昔の貴重な建物がたくさん残つたの。そこで、桐生市はこれらの貴重な建物を保存して、後世に伝えていこうと「重伝建地区」に選定されたのよ。





ところで、おねえさん。  
「ジュウデンケン」って、何？<sup>なに</sup>

正式にはね、

「桐生新町重要伝統的建造物群保存地区」って言うの。

長いでしょう。

だから、略して「重伝建」と呼んでいるよ。



「ジュウデンケン」の「ジュウ」って、数字の  
「10」じゃないんだね。  
10コじゃないとすると、「伝統的建造物」って  
いくつあるの？

細かく言うと、とってもたくさんあるの。同じ敷地内でも、  
主屋、蔵、工場など別々に指定するのね。なので、建物だけ  
で180件あるの。そのほかに、祠とか井戸とか門など  
「工作物」って言うんだけど、それが125件。それから樹木  
なども対象になるので、それが8件。 どう？ 驚いた？



じゅうでんけん  
10伝建でなく、300伝建だった！  
じゅうでんけんちく  
重伝建地区を、歩いてみたいな。

それじゃあ、重伝建地区の主な建物を紹介していくわね。  
はじめは、「矢野本店」とその蔵を活用した「有鄰館」よ。



## 矢野本店

建築年：店蔵・明治初期、 店舗・大正5年(1916)  
(市指定重要文化財)

矢野本店は、享保2年(1717)、創業者である初代矢野久左衛門が近江国蒲生郡日野町から桐生にやってきて、寛延2年(1749)二代目久左衛門がこの地に店舗を構えました。清酒・味噌・醤油の醸造業のほか質商などを営み、明治期以降は荒物・薬種・染料・呉服・銘茶部門などを扱うようになりました。現在の店舗は大正5年に建築されました。出桁造で二階正面には格子戸が残り、商家(町屋)の構えとなっています。

## 町屋・(町家)

町にある家。特に商家。道に面して並び、間口が狭くて奥行きが深いものが多い。



## だしげたづくり 出桁造

軒を深く前面に張り出した構造。そうした立派な軒が商店の格を示していた。





格子って、かつこいいでしょ。  
ねえ、知ってる？格子は、  
職業によって糸屋格子とか、  
御茶屋格子なんて呼ばれていて、  
形も工夫されているんだって。

ここは昔お酒をつくっていたので、酒屋格子  
といって、太く丈夫な木材を組み合わせてい  
るの。酒樽を積み上げたり、大型の酒造用具を  
を出し入れするため、頑丈な造りにしているそうよ。



うわあ！おもしろい階段だね。



木の箱を積み上げたような形なので、「箱階段」と呼ばれているの。  
横に引き出しがついていて、たんすとしても利用できるのよ。  
2階建てが建てられるようになった明治期の町屋で多く見られるわ。



あれは何？



あれは「杉玉」（又は「酒林」）と言って、  
造り酒屋さんの軒先につるされるの。  
緑の杉玉がつるされると、「新酒ができ  
ました」という意味なんだって。



「有鄰」って、むかし矢野商店が  
つくっていたおしょうゆの名前だ  
ったんだって！



きゅう や の くらぐん  
**旧 矢野蔵群**  
 ゆうりんかん  
**(有鄰館)**

建築年:江戸末期～大正中期  
 (市指定重要文化財)

きゅう や の くらぐん せいしゅ みそ しょうゆ じょうぞうぎょう いとな  
 旧 矢野蔵群は、清酒・味噌・醤油などの醸造業が営まれていたころの建物で、江戸か  
 ら大正期に建築されました。

れんがくら そうち しないさいだい きぼ れんがづくり たてもの みなみがわ もう  
 煉瓦蔵の倉庫は市内最大規模の煉瓦造の建物で、南側に設けられているアーチ状の石組  
 みの入口や木造の和小屋組みは当初のまま残っています。

きゅう や の くらぐん ねんだいてき あたら たてもの どういつしき ちない そんざい れい  
 旧 矢野蔵群は、年代的には新しいものの、これほどどの建物が同一敷地内に存在する例は  
 きりゆう うしない み まちな ほぞん きよてん ちゅうもく  
 桐生市内に見ることができず、町並み保存の拠点として注目されています。また、煉瓦や土  
 いた しつくい けいかん こと へきたい ふと けいたい こと はしら  
 ・板・漆喰など景観の異なる壁体や太さや形態が異なる柱などが独特の空間を演出し、コ  
 ンサートやギャラリーなど様々に活用されています。



れんがぐら  
 煉瓦蔵のアーチ状の  
 いしへ  
 石組みの入口



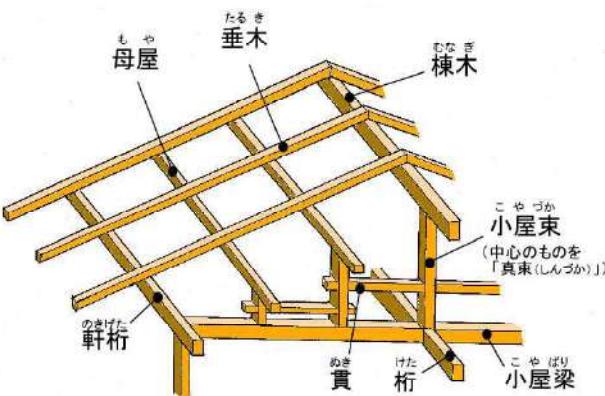
## 和小屋組み

「小屋組み」は、屋根の構造主体となる骨組みのこと。組立方法から、和小屋組みと洋小屋組みに大別されます。

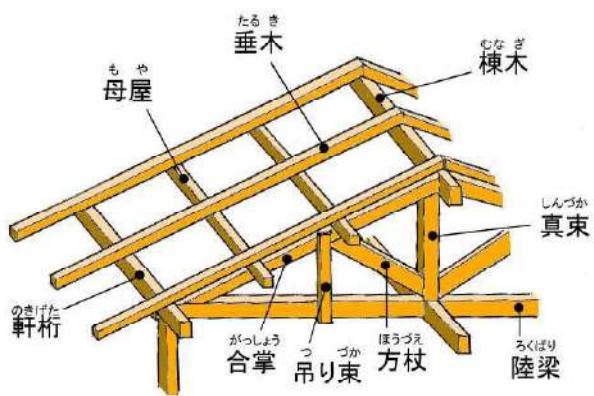
和小屋組みは、小屋梁に屋根勾配に応じた小屋束を載せ、棟木及び母屋をかけ渡し、垂木を取り付ける方式を言います。

切妻屋根、寄棟屋根など梁間の小さい建物に用いられます。

洋小屋組みは、比較的細い部材を三角形に組んでトラスを構成する方式です。屋根荷重や風にも強い構造です。



和小屋組み



洋小屋組み



ねえ、このレンガを見て。  
何か印が付いているで  
しょう。これは、この  
レンガをつくった会社の  
印なのよ。



へえー、なんだ。  
花のようなマークだね。



(大通り沿いのレンガを見てね。)

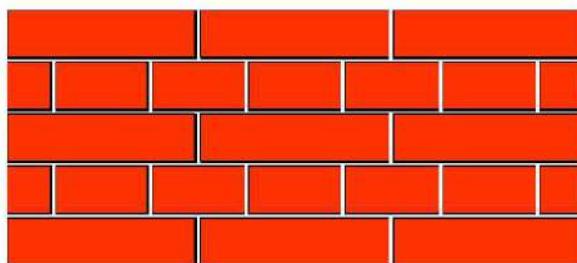
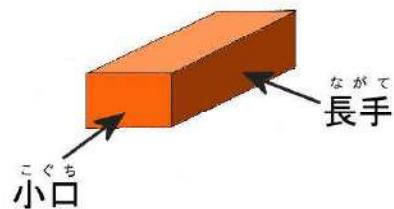
## レンガの積み方

レンガを平らに置いたとき、長細く見える側面を「長手」、  
やや正方形に見える側面を「小口」と呼びます。

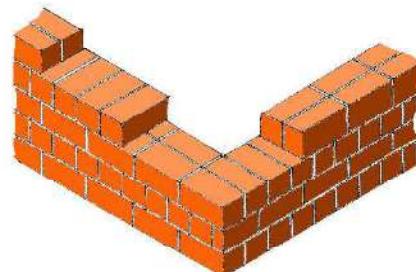
レンガの長手だけの段、小口だけの段と一段おきに積む  
方式を「イギリス積み」と言います。

レンガの長手と小口を交互に積む方式を「フランス積み」と  
言います。

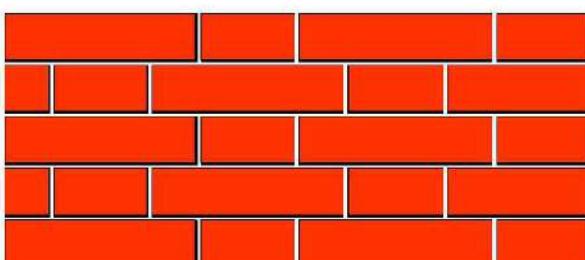
そのほかに、「小口積み」「長手積み」などの積み方があります。



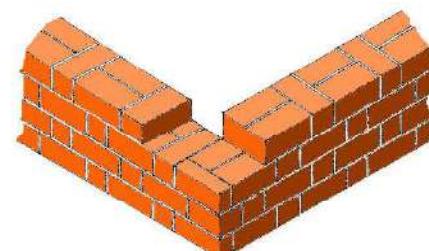
イギリス積み



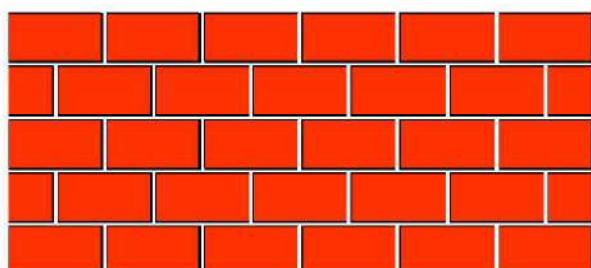
イギリス積み



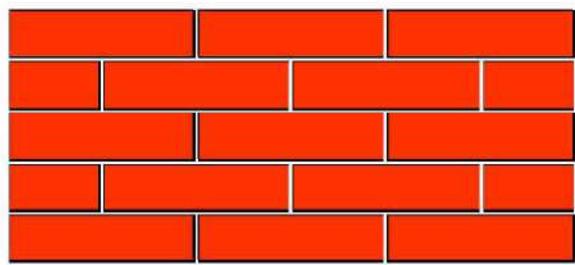
フランス積み



フランス積み



小口積み



長手積み

## たまがみやつきょく 玉上薬局

建築年：店蔵・文化3年(1806)

玉上家は、桐生新町草創期にこの地に移住し、家を構えたと言われています。玉善織と名付けて販売し、織物業を営んでいました。後に、織物業から薬種業を営み、現在の玉上薬局となりました。

この建造物は、防火を強く意識し、土蔵造となっています。また、屋根の形状が妻入りと平入りの接続された形式となっており、下屋(※)が設けられています。この形式は「恵比寿造」と称して伝えられています。現存する幕末の町屋として貴重な建物です。

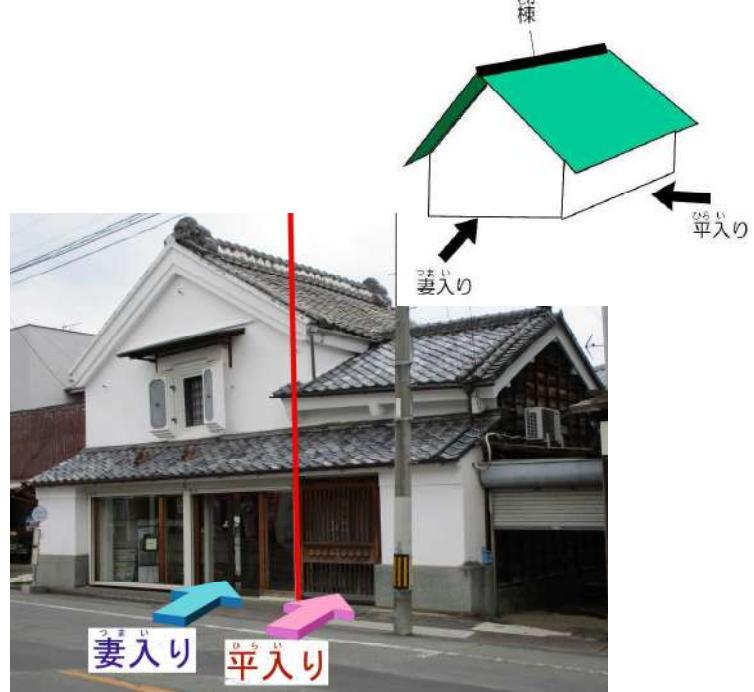
※ 下屋…母屋から差し出して作られた屋根。



## つまい ひらい 妻入りと平入り

棟(屋根の頂上で水平な部分)と直角の面を「妻」、平行の面を「平」といい、妻に入口のある建物を「妻入り」、平に入口のある建物を「平入り」と言います。

桐生新町では、通りに面する戸建ての建物は平入りが多く見られます。



## 旧書上商店（花のにしほら）

建築年：店舗・明治前期

書上家は、買継商人としてこの地に店を構え、江戸・京都に販路を拡大してきました。明治期には、近隣の足利・佐野をはじめ伊勢崎・館林にも出張所を新設し、一躍、両毛織物買継商の第一を占めるようになり、明治29年(1896)横浜支店、明治39年(1906)には上海にまで支店を開設し、「桐生織物」の販路拡大を図りました。昭和28年頃から昭和30年にかけて、作家坂口安吾が書上家の一角を借り、作家活動を行い、この地で生涯を終えています。昭和36年(1961)頃、初代当主が花屋を開業し、現在に至ります。



## 坂口安吾 千日往還の碑

坂口安吾(明治39年～昭和30年)は、有名な小説家です。昭和27年(1952)2月から三年弱の期間、書上邸の店裏の一軒家を借りて住んでいました。

そのことを記念して、地元有志により「千日往還の碑」が建てられました。碑の裏面には、当時の様子が書かれています。



坂口 安吾  
(1906～1955)



## 曾我家 住宅

建築年：明治後期頃  
(国登録有形文化財)

曾我家の初代助松は石川県鹿島郡の生まれで、明治27年(1894)に桐生に来往し、生糸商に奉公しながら商売を習得。その後、糸相場で財をなして現在地と建物を大正6年(1917)に購入しました。

建物は敷地の北側に立ち並び、東から西に主屋、土蔵、新座敷と続きます。主屋は南面して建つ木造平屋建の町屋で、屋根は本町通り側一面のみ寄棟造の切妻造で桟瓦葺です。北面は防火壁で蔵造となり白漆喰塗です。店は街路に面する東側に格子窓を設け、南側下屋に玄関を開いており、本町通りに玄関を設ける一般の町屋とは異なった意匠となっています。



### やね かたち 屋根の形

屋根は、雨や雪、強風や太陽の日差し、気温の変化などから、私たちや家の中のもの、壁などを守るのが役目です。また、その土地の風土によって、雪に強い形、風に強い形など、さまざまな屋根の形があります。桐生新町の町屋では、切妻屋根や寄棟屋根が多く見られます。

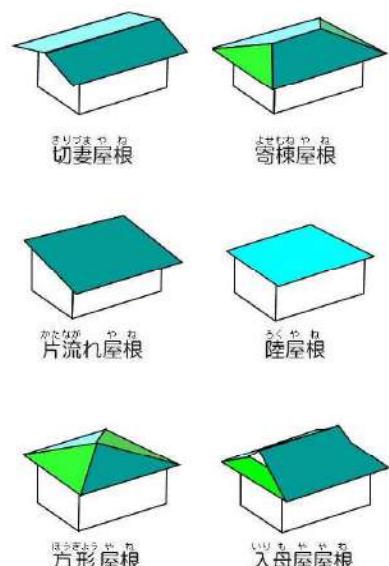


もん  
門のデザインがとっても  
すてきなの。



で まど もちおく  
出窓の持送りもすてきな  
デザイン。

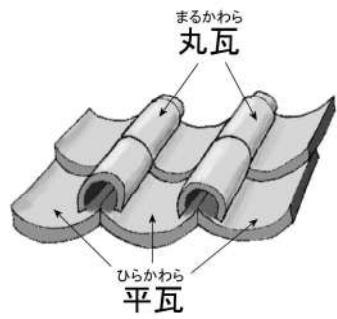
もちおく…壁や柱に取り付けて、ひさしや  
たな さき よこさい  
棚などを支える横材。



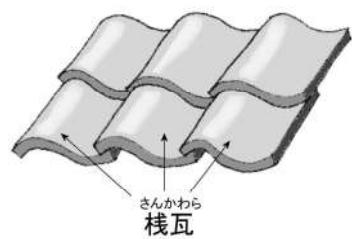
## さんかわら ぶ 桟瓦葺き

瓦は、洋の東西を問わず、屋根葺き（屋根の表面を覆うこと）に用いられてきました。日本では、約1400年前に飛鳥寺で初めて使われたそうです。当時は、平瓦と丸瓦を交互に組み合わせて並べる葺き方で、「本瓦葺き」といい、主に城郭や寺社建築に用いられてきました。

本瓦葺きは、重厚感はありますが、屋根重量が重くなるのが欠点です。延宝4年（1674）に瓦職人の西村半兵衛が丸瓦を必要としない「桟瓦」を開発したと言われています。これにより、瓦を用いる量が減り、さらに耐火建築用品として幕府や藩が瓦の使用を奨励するなどしたため、一般にも普及することになったそうです。



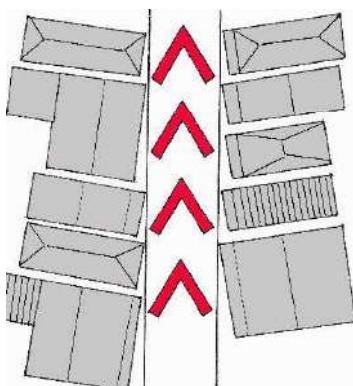
## 本瓦葺き(ほんかわらぶき)



## 桟瓦葺き(さんかわらぶき)



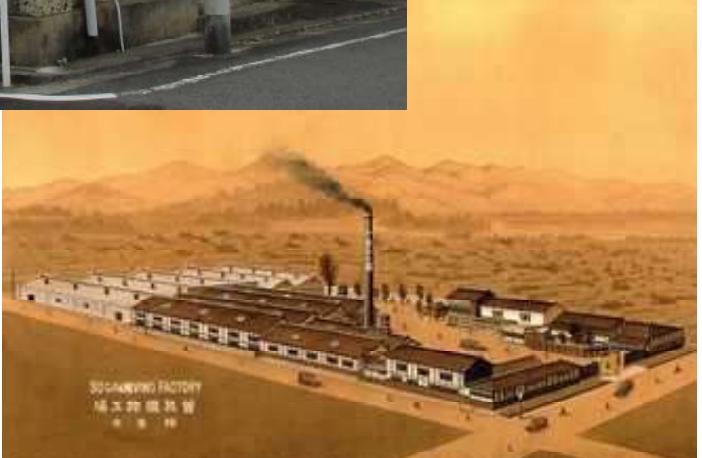
ねえ、この建物って、道路と平行じゃないでしよう。道路の反対側の建物も同じように少し斜めに建てられているでしよう。こういう「ハ」の字の形を「雁行」って言うんだけど、これは敷地が斜めになっているからなの。でも、どうして敷地を雁行させたのか、はつきりとはわかっていないの。



## きゅう そ が おりものこうじょう 旧 曾我織物工場

建築年：大正11年（1922）  
(国登録有形文化財)

きゅう そ が おりものこうじょう  
旧曾我織物工場は、5連のノコギリ屋根構造で大谷石積、木骨石造となっています。  
各棟には、それぞれ4本の円形の換気塔が建ち、建物西側には妻部分まで石が積まれて丸い  
換気口が設けられています。各棟の中央部と南側には鉄製の外開戸のついた縦長の窓があり  
ます。



やね さんかく かんきこう まる まど しかく  
屋根の三角と、換気口の丸。それに窓の四角  
の組合せが、かっこいいでしょう。



きゅう ひら た しょ うてんてん ば  
旧 平田商店店舗

建築年：明治33年(1900)  
(国登録有形文化財)

初代平田宇八は長野県木曽郡戸倉原村の出身で、天保4年(1833)に来往したと伝えられています。嘉永4年(1851)に現在の地で雑貨商を営んでいました。店舗と店蔵は明治31年(1898)の大火の後に建てられたといわれ、土蔵造の防火対策を施した構造となっています。店舗は平入りの町家で、土蔵造2階建、切妻造、棟瓦葺、表に下屋を設けています。店蔵も土蔵造2階建で小さい庇がつき、窓は店舗と同じデザインの両開き塗戸(白漆喰、内面は黒漆喰)です。また、店舗軒先の丸瓦に平田宇八の「宇」の字が印されているのもこの建物の特徴です。



見て！「宇」の字の  
丸瓦だよ。



となりの駐車場のすみに、  
すてきな彫刻があるよ。



「想い」という題名で、丸尾康弘  
さんが2005年につくったって、  
書いてあるわ。



# なかむら や いちしょうてん 中村弥市商店

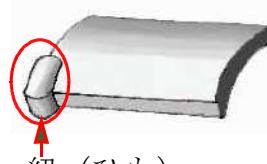
建築年：大正11年(1922)  
(国登録有形文化財)

なかむら け めい じ しょき しょう わ しょき しち や べいこく いと せん げんざい と そ う てん  
中村家は、明治初期から昭和初期にかけて質屋、米穀商、糸商、戦後から現在の塗装店、  
と そ う ぎ よう い と な い し き ち な い めい じ ねん しょう わ ねん げんざい けん ち く  
塗装業を営んでいます。敷地内には、明治27年(1894)から昭和12年(1937)にかけて建築  
と そ う ぎ よう い と な い し き ち な い めい じ ねん しょう わ ねん げんざい けん ち く  
された、文庫蔵、新座敷、奥座敷、石蔵、浴場、門が配置されています。

なかむら や いちしょうてん ま ぐち けん おく ゆ けん し き ち わ たい き た が わ た て も の は い ち き た が わ  
中村弥市商店は、間口6間、奥行き40間の敷地割りに対して北側に建物を配置し、北側  
へ き め ん ど ぞ う づ く り ぼ う か へ き も う み な み が わ も ん つ う ろ も う み せ が ま そ う け ん と う じ  
の 壁 面 が 土 藏 造 と な つた 防 火 壁 を 設 け て い ま す。 南 側 に 門、 通 路 を 設 け、 店 構 え も 創 建 当 時  
す が た の こ き り ゆ う し し ま ち と く ち う り う こ う の こ  
の 姿 を 残 し、 桐 生 新 町 の 特 徴 を 良 好 に 残 し て い ま す。



## ひものしがわら 紐熨斗瓦

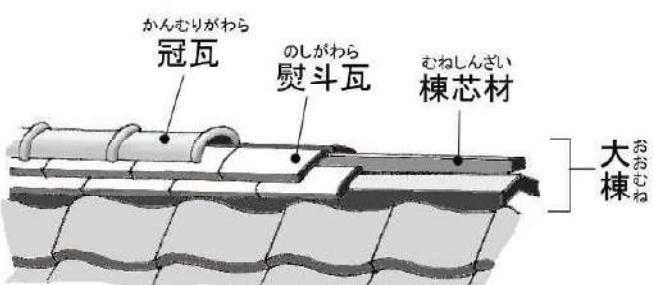


紐 (ひも)

や ね い ち ば ん す い へ い ぶ ぶ ん  
屋根の一番てっぺんにある水平部分  
を「大棟」と言います。その大棟をつ  
くっている一部が「熨斗瓦」です。瓦  
と棟だけでは雨水が浸入しやすいため、  
熨斗瓦を積んで防水性を高めています。

その熨斗瓦の継ぎ目を覆うために  
「紐」と呼ばれる突起を付けた熨斗瓦  
を「紐熨斗瓦」と言います。

祝儀袋などの右上にある飾りを「熨斗」  
と い ま す。 熨斗は、古来より長寿に通じる縁起物とされており、それを紐で結ぶ「紐熨斗」  
は、とても縁起のよい物なのです。



ひものしがわら  
紐熨斗瓦

のしがわら  
熨斗瓦

ひも むす ひものし  
祝儀袋などの右上にある飾りを「熨斗」  
と い ま す。 熨斗は、古来より長寿に通じる縁起物とされており、それを紐で結ぶ「紐熨斗」  
は、とても縁起のよい物なのです。

きゅう きたがわおりもの むりんかん  
旧 北川織物 (無鄰館)

建築年：工 場・大正 5年(1916)

事務所・大正 10年(1921)

(国登録有形文化財)

きゅうきたがわおりもの めいじき そうぎょう せんぜん おりものこうじょう りよう  
旧北川織物は明治期に創業し、戦前までは織物工場として利用されていました。戦後、  
機械工場として経営を再開し、平成13年(2001)から無鄰館と称しアーチストファクトリー  
として利用されています。

きゅうきたがわおりもの げんざい おもや こうじょう じむしょ くら づくり きたがわぼう かへき のこ  
旧北川織物は、現在、主屋、工場、事務所、蔵、レンガ造の北側防火壁が残されています。  
かべ きゅうじょこうしゅくしや もくぞうぶ しうしつ ほぞん  
レンガ壁は旧女工宿舎のもので、木造部は焼失してしまいました。レンガはイギリス積  
で、現在は鉄骨による補強を施し、モニュメントとして保存されています。また、多くの  
ノコギリ屋根工場は、均一な自然光を取り入れるために採光面を北側に向けて建てますが、  
やねこうじょう きんいつ しじんこう とい さいこうめん きたがわ む おお  
このノコギリ屋根工場は採光面を南東に向けて建てられているのが特徴です。  
やねこうじょう さいこうめん なんとう む た とくちょう



きゅうきたがわおりもの むりんかん もん  
旧北川織物 (無鄰館) の門



そら み  
空から見ると、  
こんななんだ  
って！  
ノコギリ屋根  
がよく見える  
ね。



## かい ば どお 買場通り

無鄰館の隣のガソリンスタンドを西に曲がった通りを「買場通り」と呼んでいます。ここは、明治15年（1882）に「七県連合織物共進会」が開かれた場所で、その後、桐生物産売買所が設立されて織物製品の取引が行われていました。

買場通りを西に進むと、平成28年（2016）の火災から修復された木造平屋建て二軒長屋（今は「喫茶トアル」）が見えてきます。道路を挟んだ合い向かいには、「桐生市商工業発祥の地」の碑があります。この碑には、「明治16年ここに上市場（買場）が開設された」ということが書かれています。

さらに進むと、左手に旧北川織物のレンガ壁が見えてきます。このレンガ壁は保存のため、鉄骨による補強がなされています。



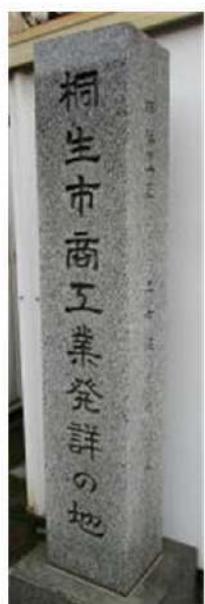
本町通りから見た買場通り  
左の角はガソリンスタンド



旧北川織物のレンガ壁



「喫茶トアル」では、野菜の  
せいろ蒸しなどが食べられます。



もり ごう し がいしや  
**森合資会社**

建築年：店舗・明治初期

事務所、石蔵・大正3年(1914)

(国登録有形文化財)

森家は、明治期から大正期にかけて金融業と土地経営により桐生最大の富豪になりました。政治経済のみならず、教育、文化面においても多大な貢献をしています。明治37年(1904)に屋号を森商店から森合資会社へと改め、現在も事務所として活用されています。事務所は、大正期に建築された当時、貴重であった白磁タイル張りの和洋折衷様式が印象的です。隣接する石蔵は、かつては森家の穀蔵として利用されていました。昭和36年(1961)に農機具店、平成14年(2002)から現在まで「天然染色研究所」として利用されています。



てんねんそめいろけんきゅうじょ  
天然染色研究所

敷地内通路を挟んだ場所の建物  
「天然染色研究所」は、事務所と同じく大正3年(1914)に建てられた旧穀蔵で石造(溶結凝灰岩)だけれど、仕上げを白漆喰にして土蔵風の外観にしたのね。





もん おく ほそなが いし お  
門の奥に細長い石が置いて  
あるでしょう。



そ が け じゅうたく にわ  
おな なが いし  
たしか、曾我家住宅の庭にも  
同じような長い石があったよ。



そ が け じゅうたく にわ いし  
曾我家住宅の庭にあった石



むかし すい ろ あと  
昔の水路の跡。  
いま ほ どう  
今は歩道になっている。

み  
そう！よく見てたわね。  
むかし すい ろ  
昔ここに水路がひかれていたのだけれど、  
いし すい ろ うえ お はし やく め  
あの石は、水路の上に置かれて橋の役目を  
してたそうよ。  
すい ろ う しきいし つか  
水路が埋められてしまったので、敷石に使  
っているのね。



みぎ しやしん いし かべ  
右の写真は、石を壁の  
いちぶ りよう れい  
一部に利用している例。

## きゅう かぶしきがいしやかなよしおりものこうじょう 旧 株式会社金芳織物工場 (当初登録:金谷レース工業株式会社)

建築年:鋸屋根工場・大正8年(1919) (国登録有形文化財)

そうぎょう めいじ じょき  
創業は明治初期のころであり、大正8年に鋸屋根工場、事務所、染色場などを建築。  
じぎょう じゅんちょう すいい  
事業は順調に推移し、その後全盛期を迎えました。太平洋戦争中は軍需工場として操業  
せんご かなや こうぎょう かぶしきがいしや  
し、戦後は金谷工業株式会社として事業を再開、その後金谷レース工業株式会社と改称し  
ました。

げんさい ゆうげんがいしや  
現在は、有限会社ルパンに所有権が移り、鋸屋根工場は製パンと飲食の場に改装され  
れんが づくり  
ています。煉瓦造  
のこぎり や ね こうじょう  
の鋸屋根工場と  
しない ゆいいつ  
しては市内で唯一  
たてもの  
の建物となっていました。当初  
とうしょ  
は6連の屋根でした  
れんが や ね  
たが、北側に新工  
じょう けんせつ  
場を建設したた  
げんざい れん  
め現在は4連にな  
っています。



## かなや こうぎょう かぶしきがいしや じ むしょ 金谷レース工業株式会社事務所

建築年:事務所・昭和初期

(国登録有形文化財)

しょうわ しょき  
昭和初期における建造物の全国的な流行にのり、桐生市内でもスクラッチタイルを貼つ  
たてもの りゅうこう  
たが、この事務所は木造二階建てのスクラッチタイル貼りで、水平線を  
は すいへいせん  
は  
貼りで、水平線を



きょうちょう けんちく とくちょう  
強調したライト建築の特徴をもっており、  
とく まど さいぶ いたい いしょ  
特に、窓や細部に至る意匠に時代的な特徴  
み じ むしょ のこぎり や ね こうじょう  
が見られます。事務所と鋸屋根工場を比



ひだり 左がスクラッチタイル。  
みぎ 右がレンガ。

## よつじ さいか 四辻の齋嘉

辻とは十字路のことを指しますが、ちょうど桐生新町の起点となった桐生天満宮近くの交差点の角にあり、古くから桐生の人々に親しまれてきた齋藤織物の経営者であった齋藤家の本宅の建物のことです（齋嘉とは当主・齋藤嘉平の略）。

（株）桐生再生では、地元桐生でも古くから有名なこの伝統的建造物を購入し、本社敷地内の象徴的建物として大切にしながら、桐生の産業観光の拠点として活用しています。

「（株）桐生再生公式ホームページ」より



ていそくでんどう  
低速電動コミュニティバス  
「まゆ」号の車庫があるよ。



まいつきだいいち ど よう び  
毎月第一土曜日には、  
かいば さ や い ち かいさい  
「買場紗綾市」が開催  
おお ひと  
され、多くの人にぎ  
わっています。



## てんまんぐうしやでん 天満宮社殿

(国指定重要文化財)

天満宮の社殿は、県内の江戸時代の社殿建築に多く見られる、本殿が幣殿・拝殿につながった権現造の形式です。

本殿・幣殿は外壁の前面に極彩色の精巧・華麗な彫刻が施されており、内部は同様な彫刻とともに壁画も描かれていて、北関東の近世神社建築の特徴をよく示した優れた建築です。

\*幣殿…神社で、参詣者が幣帛(へいはく)をささげる社殿。拝殿と本殿との中間にある。

\*幣帛…神社で、神前に供えるものの総称。みてぐら。ぬさ。

\*拝殿…神官が祭典を執行したり、参拝者が拝礼したりするための建物。神社本殿の前におかれる。



この牛の像は「撫牛」と言って全国の多くの天満宮にあるよ。自分の体の悪いところと同じ場所を撫でると、よくなるんだって。だから、牛の頭を撫でると、頭がよくなるんだ！



毎月第一土曜日には、  
「古民具骨董市」が  
開催されています。





きりゅう う てんまんぐう ちょうこく  
桐生天満宮は彫刻  
もみごとの。  
つくられた当時は、  
した す  
下の図のよう  
ごくさいしき  
極彩色だったそ  
うよ。



「本殿幣拝殿妻之図」



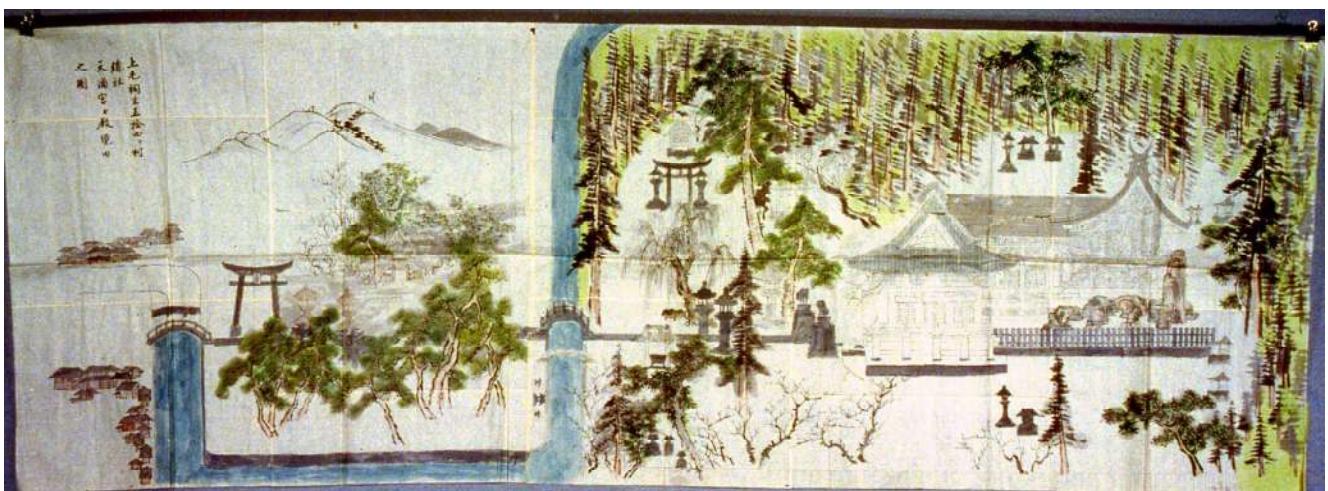
あれっ？あの石、何か文字が書いてある。

いし ちからいし い  
あの石は「力石」と言って、  
むかし ちからだめ  
昔、力試しをしたとか、  
うらな  
占いをしたとか、いろんな  
せつ 説があるの。ちからいし  
力石はほか  
さが  
にもあるので、探してみて。





みつ はし  
あそこに三つ橋があるけど、  
ねんだい ぜん ぶちが  
つくられた年代が全部違うの。  
した こえ ず み  
下の古絵図を見て。  
ま なか えが  
真ん中あたりに描かれてい  
るのが、この橋よ。



へん かたち  
変な形のベンチがあるよ。



むかし てんまんぐう おおとりい  
あれは昔、天満宮の大鳥居  
のあたりの水路にかかって  
いた橋の石よ。  
すい ろ ほんちょうどお  
この水路は、本町通りの  
すい ろ 水路につながっていたの。



じゅうでんけん ち く けんがく さい ちゅう い  
重 伝建地区を見学する際の注意！

- 建造物の多くは個人等が所有・管理し、実際に生活している場所ですので、自由に見学  
ができるものではありません。  
しき ち む だん はい しやしんさつえいとう きょ か え おこな  
敷地には無断で入らず、写真撮影等は許可を得てから行ってください。

きりゅう しんまち  
桐生新町



# じゅうでんけん 重伝建マップ

きりゅう てんまんぐう  
桐生天満宮



さゆつかなべ  
旧金谷レース

(ベーカリーカフェ・レンガ)



おおとりい  
大鳥居



もりごう し がいしゃ  
森合資会社



きゅうきたがわおりもの  
旧北川織物  
(無鄰館)



ほん  
本

よつじ さいか  
四辻の齋嘉



なかむら や いちしょうでん  
中村弥市商店



そがけじゅうたく  
曾我家住宅



ちょう  
町



きゅうひら た しょうでんてん ば  
旧平田商店店舗

きゅうそ が おりもの こうじょう  
旧曾我織物工場



どお  
通

り

きゅう や の くらぐん  
旧矢野藏群  
(有鄰館)



きゅうかき あげしょうでん  
旧書上商店  
(花のにしほら)



や の ほんてん  
矢野本店

